金高新聞

発行所
金沢市泉本町3-111
金沢高等学校
新聞部

校訓と教育理念

質実剛健の気風を高揚し
共に求める真理
共に育む友愛
共に尊ぶ礼節
共に鍛える心身

次年度からスタート
セーターの色「どちらを選ぶ?」
～新聞部が聞きました～

次年度から制服のセーターの色を性別に関わらず選べることについて、新聞部のアンケートに回答した生徒の多くが歓迎していることが分かった。また、女子の多くは「紺色」のセーターを希望しているようで、今後制服の多様化が広がりそうだ。

男子は紺、女子はピンクというセーターの規定が変わる

回答者の9割「賛成」

ジェンダーレス化に対応したセーター選択制度が次年度から適用されることについて、新聞部では1、2年生を対象に12月にアンケートを実施し、全体の28・5％となる259人から回答を得た。その結果、244人（94％）が賛成と答え、その理由として「好きな色を性別に関係なく着たいから」を挙げる人が最も多かった。

どちらの色を選びたいか聞いたところ、男子は98・9％が紺色だったのに対し、女子は紺色が61％、ピンクが38％と現状からの変化を求める声が多かった。また、2年生女子は紺色が多かったのに対し、1年女子ではピンクを選ぶ数が多かった。

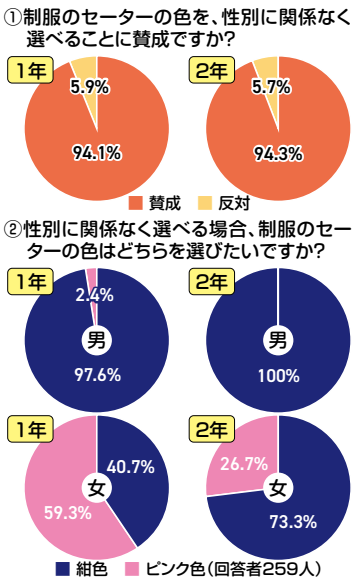
一方で、「男女別の色の方がよい」（11人）、「性別による明確な識別ができないと混乱を招く恐れがある」（1人）という意見もあった。新入生も含め、今後生徒がどのような選択をしていくのか、注目していきたい。

校則の検討進む

制服を含む身だしなみのルールについて、今年度は校則検討委員会においてさまざまな協議が行われてきた。

これまでに①シャツ・ブラウスのみの姿を認める（校内のみ。式典を除く）、②ブレザーの前ボタンを開けた姿を認める（校内のみ。式典を除く）③女子の指定ソックスに準じたものの着用を認める（式典を除く）、④スカートの下に体操服の長ズボンをはくことを認めない、が決定された。

多様な価値観や生徒の意見を反映し、全国でも制服の種類や校則を見直す動きは広がっている。我々も積極的に意見を出し、当事者意識を持って新たなルール作りを進めていきたい。



意見を交わし合う検討委員たち

主張

高校生の「労働」は認められるべきか
―進路選択など教育的効果も―

あなたは高校生がアルバイトをすることをどのように考えるだろうか。学生の本分は勉学であり、その時間を削ってアルバイトに精を出すのは本末転倒だ。しかし私は、アルバイトが高校生にとって貴重な社会経験ができる場なのではないかと考えている。

アルバイトは増加傾向

昨年㈱マイナビが行った調査によると、アルバイトをしている高校生の割合は27・4％で、2年連続で増加した。その目的として「貯金をするため」が最も多く、「趣味のため」「推し活・ゲームなどの娯楽に使うため」が続いた。物価高によって家計が苦しくなり、小遣いを減らす家庭が増えていることも背景にあるのではないだろうか。

ただし、本校を含む多くの高校では、よほど経済的な事情などがない限り、アルバイトは原則禁止されている。それでも私がアルバイトの必要性を訴えるのは、高校生には社会経験を得る場が圧倒的に足りないと考えているからだ。近年、大卒者の3割が「想定していた仕事と違う」などという理由で3年以内に早期離職している。そのミスマッチ防止のためにインターンシップ（就業体験）を行う企業が増えており、大学生にとって企業の理解、自己分析を深めるチャンスとなっている。

しかし高校生はどうだろうか。進路選択の時期を迎え、自分のやりたいことに確信が持てない人は周囲にもいる。ネットで得られる情報には限りがあるし、中学生のような職業体験の機会があるわけではない。だからアルバイトの経験を通じて自分の適性を探ることは決して的外れではない。

もちろん、学業との両立が問題になってくるが、アルバイトをする前に保護者や先生に十分に相談して、過度な負担とならないような就業計画を立てることが重要だ。他にも、特殊詐欺などに絡む「闇バイト」に巻き込まれないよう、就業場所の選択は信頼できる公的なあっせん組織を活用する。そして悪ふざけでSNSに不適切な写真を投稿する「バイトテロ」を防ぐため、職業倫理などの就業前教育を十分に行うなどの対策が必要だ。

行動に責任を持つこと

アルバイトで社会を学ぶということは、自分の行動に自ら責任を持つということだ。もし私がアルバイトをするなら、レストランなどの接客業をしてみたい。おいしそうな「まかない」に惹かれたのも事実だが、さまざまな経験を通じて、将来の仕事観を育む機会になるのではないかと夢想している。

（林　菜月）

改革のバトンをつなぐ
～後期生徒会執行部　活動中～

令和7年度後期生徒会執行部は9月30日に選出され、山邉会長をはじめとする新たな執行部は「継承」をスローガンに掲げ、学校改革のバトンと本校の良き伝統を次につなぐ決意を持って行動している。

寒風の中、募金活動を行う執行部

校則検討委員会に力を入れる

山邉さんは「生徒の皆さんの意見をもとに校則検討委員会で話し合いをしているので、ぜひ意見を伝えてほしい」と協力を呼びかけた。副会長の後藤さんと長元さんは「校則検討委員会の常設を目指す」「全員が協力し合って活動できるようにする」とそれぞれ抱負を述べた。

書記の福田さんは「校内に移動販売を取り入れたい」、山田さんは「様々な生徒の意見を学校に反映させたい」とアイデアを語った。会計の越原さんは「日進月歩」、金岩さんは「一意専心」をスローガンに掲げた。

執行委員の野村さん、西野さん、本郷さん、泉さん、小泉さんからは「学校をより良くしたい」などの言葉が聞かれた。執行部が「継承」する学校改革に大いに期待したい。

立候補者の演説に聞き入る生徒たち

令和７年度後期 生徒会執行部

- 会長
  - 山邉　椛乃（2年6組）
- 副会長
  - 後藤　康汰（2年11組）
  - 長元　鳳伽（1年3組）
- 書記
  - 福田　一瑠（1年3組）
  - 山田　侑佳（1年3組）
- 会計
  - 越原　悠介（2年12組）
  - 金岩　理倖（1年6組）
- 執行委員
  - 野村　侑生（2年8組）
  - 西野　圭音（1年1組）
  - 本郷　裕大（1年1組）
  - 泉　乃愛（1年7組）
  - 小泉　明音（1年12組）

「翔タイム!」笑顔あふれた金高祭
新企画・新メニューが人気呼ぶ

第97回金高祭が8月28日、29日に行われ、例年よりも日程が前倒しとなった今回は、スタンプラリーなどの新企画をはじめ、焼き立てピザやさつまいもスティックなどの工夫を凝らした模擬店メニューが人気を集めた。

模擬店の焼き鳥を作る生徒たち

ゲームや食堂の設営・装飾、2年生は舞台でダンスや映像作品の発表を行い、3年生は模擬店販売を実施した。

生徒会企画では、「運命の人を探せ!」やスタンプラリー、カラオケ、ボッチャなど様々な企画が行われた。体育館で実施された金高ショータイムでは、歌唱やバンド演奏などが行われ、風先生と生徒の愉快なコラボレーションに生徒の盛り上がりは最高潮に達した。

今年のテーマ「喜翔天結～Shining Smile 翔time～」の通り、一人ひとりの笑顔が輝く喜びあふれた二日間となった。

ステージ発表に歓声

本校はこれまで9月に金高祭を実施していたが、今回は8月の開催となったため、夏休み終盤からクラスで準備に取り組む生徒たちの姿が見られた。1年生は射的などの姿に歓声が上がった。

新競技として注目を集めた女子による「ムカデリレー」では、タイミングを合わせて小走りに駆け抜ける「ムカデ」たちに、会場から熱い声援が送られた。最終結果は黄団が644点で8年ぶりに優勝し、赤団は539点、緑団は522点、青団は481点だった。

体育祭は黄団優勝

体育祭は9月22日、「挑戦!我らの熱き鼓動」をテーマに、金沢市総合体育館で開催された。

最初の種目である8の字跳びでは、息を合わせて140回以上の好成績をたたき出すクラスもあった。また、人気の部活動対抗リレーでは、今年は「教員チーム」の参加もあり、生徒に負けじと走る先生たちの一生懸命な姿に歓声が上がった。

力走する生徒たち

Soul 魂

新人大会特集

県高校新人大会は8月末から11月の期間に県内各地で行われ、各部、同好会の選手たちが熱戦を繰り広げた。

陸上

男子総合2位 リレー 2種目制す

県高校新人陸上競技が9月18日から20日にかけて西部緑地公園陸上競技場で行われ、陸上競技部は男子が2年連続の総合2位となった。男子は400m走と400mHで澤村昂志郎さん（2年5組）が優勝、棒高跳では山本納生昌さん（2年10組）が頂点に立ち、鶴来充希さん（2年3組）は110mHを制した。また男子はリレー2種目で優勝を果たした。

部長の鶴来充希さんは「チーム一丸となった熱い応援を受け、男女共に多くの選手が北信越大会に出場できました。現在はそれぞれの目標を達成するために冬季練習に励んでいます。これからも応援よろしくお願いします」と来期に目を向けて語ってくれた。

【県新人大会結果】

◇男子

▼100m
佐野　司（2年11組）3位
川北泰志（2年10組）4位

▼200m
佐野　司　3位
中野　拓（2年2組）5位
中田大護（2年7組）6位

▼400m
澤村昂志郎　優勝

▼110mH
鶴来充希　優勝
亀沢　諒（2年5組）5位
北野哲平（1年4組）7位

▼400mH
澤村昂志郎　優勝
亀沢　諒　2位
坂西健真（1年13組）3位

▼4×100mリレー
鶴来充希・佐野　司・中野　拓・川北泰志　優勝

▼4×400mリレー
西本彩人（2年2組）・澤村昂志郎・亀沢　諒・小寺剛斗（1年7組）　優勝

▼棒高跳
山本納生昌　優勝

▼走幅跳
川北泰志　3位
西田遼人（1年11組）4位
中野　拓　7位

▼三段跳
西田遼人　3位
南　璃空（1年6組）8位

▼砲丸投
篠井建琉（1年4組）4位

▼円盤投
篠井建琉　4位

▼やり投
篠井建琉　2位

▼八種競技
石本悠輔（1年11組）7位

▼総合　2位

▼トラック　2位

▼フィールド　2位

▼混成　5位

◇女子

▼100m
平岸瑠莉（2年6組）7位

▼200m
平岸瑠莉　3位
安井遥香（1年9組）6位

▼400m
安井遥香　5位

▼棒高跳
網ひかり（1年6組）2位

▼三段跳
田島祐佳（2年3組）5位
慶伊吹音（1年1組）6位

▼砲丸投
西田紗友那（2年11組）5位
山下寿理（1年10組）7位

▼円盤投
山下寿理　6位
西田紗友那　7位

▼七種競技
池田夏野（1年4組）7位
小川倖叶（1年2組）8位

▼総合　6位

▼フィールド　3位

▼混成　5位

【北信越大会結果】

◇男子

▼100m
佐野　司　7位

▼200m
佐野　司　7位

▼400mH
澤村昂志郎
亀沢　諒　2位

▼4×400m
西本彩人・澤村昂志郎・亀沢　諒・小寺剛斗　6位

▼棒高跳
山本納生昌　4位

▼走幅跳
西田遼人　8位

▼三段跳
西田遼人　8位

◇女子

▼200m
平岸瑠莉　5位

▼棒高跳
網ひかり　6位

男子400mを1位で駆け抜けた澤村さん

【県新人大会結果】

◇男子

▼100m
佐野　司（2年11組）3位
川北泰志（2年10組）4位

▼200m
佐野　司　3位
中野　拓（2年2組）5位
中田大護（2年7組）6位

男子テニス

2年連続！ 団体・個人・複 3冠達成

試合を終え、充実した表情の生徒たち

県高校新人テニス競技は9月18日から21日にかけて小松運動公園末広テニスコートで行われ、男子テニス部は団体決勝で泉丘を破り、4年連続18回目の優勝を果たした。

個人戦シングルスでは、辻本悠嗣さん（2年8組）が2連覇を達成し、板坂翼さん（2年7組）と矢原青空さん（2年8組）のペアが個人戦ダブルスを制し、男子テニス部は団体戦を含めて2年連続で三冠をおさめた。

部長の矢原青空さんは、「試合の中で思うように力を発揮できない場面もありましたが、今後の練習でどこを伸ばすべきかがはっきりしたと感じました。特にラリーの安定感やメンタル面での粘り強さが他校の選手より劣っていると実感しました。これらの課題を克服し、大会で良い結果を残せるように頑張ります」と語った。

【県新人大会結果】

◇団体戦

2回戦　金沢 3－0 小松
準々決勝　金沢 3－0 石川高専
準決勝　金沢 4－0 県立工業
決勝　金沢 3－0 泉丘　優勝

◇個人戦シングルス

辻本悠嗣　優勝
板坂　翼　2位
谷　律輝（1年6組）
山村未来（1年9組）　ベスト8

◇個人戦ダブルス

板坂　翼・矢原青空ペア　優勝
辻本悠嗣・谷　律輝ペア　3位
山村未来・西島舜樹（2年6組）ペア　ベスト8

【北信越大会結果】

◇団体戦

2回戦 金沢 1－4 裏日本高専（新潟）
順位戦1回戦 金沢 3－0 富山第一（富山）
順位戦2回戦 金沢 2－3 敦賀気比（福井）

女子テニス

丸田さん 全国へ 団体準優勝

女子テニス部は団体戦の決勝では惜しくも北陸学院に敗れ、昨年に続き準優勝となったが、代表決定戦で二水に勝利し、北信越大会の出場権を手にした。

個人戦シングルスでは、丸田芽生莉さん（1年5組）が優勝し、全国選抜大会出場を決めた。

部長の中森千晴さん（2年12組）は「優勝することを目標に日々練習に励んできましたが惜しくも達成することはできませんでした。この負けから多くのことを学ぶことができました。総体ではリベンジしてインターハイに出場し、みんなで目標を達成できるよう日々の練習を頑張っていきます」と語った。

【県新人大会結果】

◇団体戦

1回戦　金沢 4－0 北陵
準々決勝　金沢 3－0 金沢商業
準決勝　金沢 3－0 泉丘
決勝　金沢 1－3 北陸学院　2位

◇個人戦シングルス

代表決定戦　金沢 3－0 二水
丸田芽生莉　優勝
中森千晴　ベスト8

◇個人戦ダブルス

丸田芽生莉・炭憂奈（2年7組）ペア　優勝
中森千晴・新保柑菜（2年8組）ペア　ベスト8

【北信越大会結果】

◇団体戦

1回戦 金沢 3－2 屋代（長野）
準々決勝 金沢 0－5 仁愛女子（福井）
順位戦1回戦 金沢 3－0 富山北部（富山）
順位戦2回戦 金沢 1－3 北陸学院
5位決定順位戦 金沢 3－1 富山北部（富山）　5位

ストロークを打つ炭さん

男子バスケット

「さらに進化を」

ドライブを仕掛ける北本さん

県高校新人バスケットボール競技が11月13日から16日にかけて小松末広体育館で行われ、男子バスケットボール部は準々決勝で小松大谷に敗れ、ベスト8となった。

部長の本郷遼太さん（2年10組）は「思うような結果を残すことができず、悔しさが残りました。それでも大会までに積み上げてきた準備は一つも無駄ではなく、試合を重ねるごとにチームとして確かな成長を感じることができました。次の大会までに新しい力を積み上げ、さらに進化した姿を見せられるよう、チーム一丸となって取り組んでいきます」と語った。

【県新人大会結果】

2回戦　金沢 99－39 大聖寺
3回戦　金沢 94－53 小松工業
準々決勝　金沢 56－76 小松大谷　ベスト8

レイアップをする細山さん

女子バスケット

「この経験を糧に」

女子バスケットボール部は準々決勝で金学大附に敗れ、同じくベスト8となった。部長の仲田叶さん（2年9組）は、「今まで先輩方が守り続けてくださったベスト4という長い歴史を壊してしまい、とても悔しい思いをしました。この負けがあったから勝てた、と言えるように今回の経験を次の大会につなげていきたいと思います」と雪辱を誓った。

【県新人大会結果】

2回戦　金沢 166－12 金沢附属
3回戦　金沢 139－40 鹿西
準々決勝　金沢 68－98 金学大附　ベスト8

柔道

川端さん 優勝 女子団体 3位

県高校新人柔道競技は11月13日から15日にかけて県立武道館で行われ、柔道部は女子団体が3位となり、個人では川端優希菜さん（2年12組）が女子52kg級で優勝した。

部長の川口洸樹さん（2年3組）は「一人ひとりが目標を決めて今回の大会に臨みましたが、十分に達成することはできませんでした。次の大会に向けて今より練習に励みたいと思います」と意気込みを語ってくれた。

【県新人大会結果】

◇男子団体

▼予選リーグ
1回戦 金沢 2－3 金市工業
2回戦 金沢 2－2 県立工業（内容差負）

◇男子個人

▼66kg級
川口洸樹　3位

◇女子団体

▼予選リーグ
1回戦 金沢 2－1 小松大谷
2回戦 金沢 0－3 金学大附

▼決勝トーナメント
準決勝 金沢 1－2 津幡　3位

◇女子個人

▼52kg級
川端優希菜　優勝

▼63kg級
高岡芽生（1年5組）3位

個人戦入賞を果たした選手たち

サッカー

ベスト8

ドリブルでボールを運ぶ山部さん

県高校新人サッカー競技が11月13日から15日にかけて金沢市スポーツ交流広場などで行われ、サッカー部は準々決勝で鵬学園に敗れ、ベスト8となった。

部長の佐々木颯太さん（2年4組）は「大会中は多くの保護者や先生方から温かい声援をいただいたにも関わらず、期待に応えることができませんでした。しかしこの大会では多くの気づきと成長がありました。この経験を糧にこれからも成長し、強くたくましいチームになっていきますので、これからも応援よろしくお願いします」と決意を語った。

【県新人大会結果】

◇予選リーグ

金沢 21－0 翠星
金沢 13－0 北陵
金沢 5－0 金沢西

◇決勝トーナメント

1回戦　金沢 2－2 錦丘　4PK1
準々決勝　金沢 0－2 鵬学園　ベスト8

金高

水泳　3年連続 アベック優勝 18種目 栄冠に輝く

男女共に優勝し、充実した表情の選手たち

県高校新人水泳競技は8月31日、小松市末広屋外水泳プールで行われ、水泳部は競泳の学校対抗で男女共に3年連続の優勝を果たした。個人、リレーを含めて18種目で栄冠を手にし、圧倒的な強さを見せた。

部長の道玲音さん（2年3組）は「私たちは普段別々のプールで練習していますが、3年生が引退してから初めて一つのチームとしてこの大会に挑み、良いスタートを切ることができました。今年の夏、一人でも多く上位大会へと進めるよう、そしてベストタイムを多く出せるよう頑張ります」と意欲を見せた。

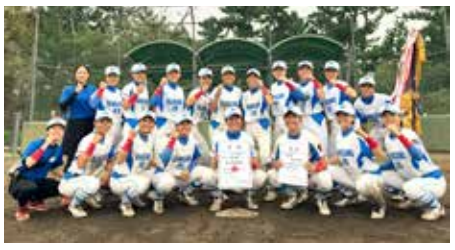
【県新人大会結果】
◇男子個人
▼50m自由形
森田晴也（1年11組）4位
▼100m自由形
山田晴太（2年10組）優勝
小松柊斗（2年6組）2位
島田凌來（1年9組）5位
▼400m自由形
道　玲音　3位
小船泰誠（1年4組）4位
▼800m自由形
小船泰誠　3位
本野仁太朗（1年11組）4位
▼50m背泳ぎ
高山一冴（2年2組）4位
▼100m背泳ぎ
小松柊斗　2位
福岡宥人（1年13組）2位
▼100m平泳ぎ
福岡宥人
高村陸斗（1年9組）3位
▼50mバタフライ
山田晴太　優勝
小鍋樹人（1年10組）2位
森田晴也　6位
▼100mバタフライ
道　玲音　優勝
小鍋樹人　2位
▼200m個人メドレー
高村陸斗　優勝
島田凌來　5位
是枝祥太朗（1年6組）8位
▼400m個人メドレー
本野仁太朗　優勝
高山一冴　3位
▼400mフリーリレー
山田晴太・小松柊斗・森田晴也・小鍋樹人　優勝
▼400mメドレーリレー
小松柊斗・高山一冴・道玲音・山田晴太　優勝
◇男子学校対抗（競泳）優勝
◇女子個人
▼50m自由形
笠間香羽（2年11組）優勝
▼100m自由形
佐藤瑠亜（2年12組）優勝
▼50m平泳ぎ
福岡宥人
高村陸斗（1年9組）3位
▼50mバタフライ
山田晴太　優勝
小鍋樹人（1年10組）2位
森田晴也　6位
▼100mバタフライ
道　玲音　優勝
小鍋樹人　2位
▼200m個人メドレー
高村陸斗　優勝
島田凌來　5位
是枝祥太朗（1年6組）8位
▼400m個人メドレー
本野仁太朗　優勝
高山一冴　3位
▼400mフリーリレー
山田晴太・小松柊斗・森田晴也・小鍋樹人　優勝
▼400mメドレーリレー
小松柊斗・高山一冴・道玲音・山田晴太　優勝
◇男子学校対抗（競泳）優勝
◇女子個人
▼50m自由形
笠間香羽（2年11組）優勝
▼100m自由形
佐藤瑠亜（2年12組）優勝
▼50m平泳ぎ
福岡宥人
高村陸斗（1年9組）3位
▼50mバタフライ
山田晴太　優勝
小鍋樹人（1年10組）2位
森田晴也　6位
▼100mバタフライ
道　玲音　優勝
小鍋樹人　2位
▼200m個人メドレー
高村陸斗　優勝
島田凌來　5位
是枝祥太朗（1年6組）8位
▼400m個人メドレー
本野仁太朗　優勝
高山一冴　3位
▼400mフリーリレー
山田晴太・小松柊斗・森田晴也・小鍋樹人　優勝
▼400mメドレーリレー
小松柊斗・高山一冴・道玲音・山田晴太　優勝
◇男子学校対抗（競泳）優勝
◇女子個人
▼50m自由形
笠間香羽（2年11組）優勝
▼100m自由形
佐藤瑠亜（2年12組）優勝
▼400m自由形
佐藤瑠亜
▼800m自由形
坂尻心美（1年9組）2位
▼50m背泳ぎ
笠間香羽　優勝
▼50m平泳ぎ
本野由芽（2年3組）3位
▼100m平泳ぎ
坂尻心美　2位
酒井莉緒（2年8組）3位
▼50mバタフライ
高橋心希（2年12組）優勝
▼100mバタフライ
高橋心希　優勝
▼200m個人メドレー
酒井莉緒　優勝
▼400m個人メドレー
本野由芽　優勝
▼400mフリーリレー
笠間香羽・高橋心希・坂尻心美・佐藤瑠亜　優勝
▼400mメドレーリレー
本野由芽・佐藤瑠亜・高橋心希・笠間香羽　優勝
◇女子学校対抗（競泳）優勝

ソフトボール　6年連続 14回目V 全国選抜大会出場決めた

県高校新人ソフトボール競技は10月18日から19日にかけて、金沢専光寺ソフトボール場で行われ、ソフトボール部は決勝で金学大附を5－0で下し、6年連続14回目の優勝を果たした。

部長の赤羽美朔さん（2年7組）は「今大会で優勝することができましたが、私たちが納得いくような内容ではありませんでした。その反省を活かし、全国選抜大会で日本一になるために、今までよりも日々の練習を大切にして、どうしたら上達できるかを考えて、行動し、毎日成長していきます。これからも応援よろしくお願いします」と表情を引き締めた。

【県新人大会結果】
準決勝　金沢 2－1 星　稜
決　勝　金沢 5－0 金学大附　優勝
【北信越大会結果】
1回戦　金沢 7－0 高専一・長野高専
準決勝　金沢 14－4 長野商業（長野）
降雨のため4校同時優勝


優勝旗を手に笑顔の選手たち

剣道　女子団体 4連覇

攻めていく尾蔵さん（右）

県高校新人剣道競技が11月13日から15日にかけて羽咋体育館で行われ、剣道部は女子団体が4連覇して12回目の優勝を果たし、北信越出場を決めた。

部長の中農陽さん（2年6組）は、「個人戦は全員が満足する結果ではありませんでしたが、しっかり修正し、団体戦に臨むことができました。次の大会は必ず勝ち切り、全国で戦いたいと思います。さらにもっと力をつけ、自信を持って試合できるように頑張ります」と意欲を見せた。

【県新人大会結果】
◇女子団体
▼予選リーグ
金沢 2－0 桜　丘
金沢 3－0 金学大附
金沢 1－0 航空石川　1位通過
▼決勝トーナメント
準決勝 3－0 羽　咋
決　勝 2－0 金学大附　優勝
◇男子団体
▼予選トーナメント
2回戦　金沢 0－3 金学大附

女子バレーボール　北信越大会出場決めた

スパイクを決める大端さん

県高校新人バレーボール競技が11月13日から16日にかけて白山郷公園体育館などで行われ、女子バレーボール部は準決勝で航空石川に敗れ3位となったが、北信越大会に駒を進めた。

部長の大端那菜美さん（2年8組）は「序盤から苦しい場面の多い試合がありましたが、最後まで粘りのある元気で明るいプレーをした結果、目標のベスト4に入ることができました。北信越大会で上位の対戦相手に通用するチームになるために、基本のプレーを確実にし、こだわって練習をしていきます」と気合を入れた。

【県新人大会結果】
◇予選リーグ
金沢 2－0 田鶴浜
◇決勝トーナメント
1回戦　金沢 2－1 星　稜
2回戦　金沢 2－0 羽　咋
準々決勝　金沢 2－0 小松矢谷
準決勝　金沢 0－2 航空石川　3位

ハンドボール　「さらに切磋琢磨を」

シュートを打つ長橋さん

県高校新人ハンドボール競技が11月13日から16日にかけて小松総合体育館で行われ、ハンドボール部は決勝トーナメントで小松に敗れ、ベスト8となった。

部長の西本士道さん（2年2組）は「決勝トーナメントに出場したものの、初戦敗退という悔しい結果となりました。次の春季大会までには足りない部分を補い、ベスト4という目標に届くように切磋琢磨していきたいと思います」と話してくれた。

【県新人大会結果】
◇予選
金沢 11－49 金学大附
金沢 21－20 桜　丘
◇決勝トーナメント
2回戦　金沢 15－28 小　松　ベスト8

卓球　女子団体 ベスト8

女子団体の選手たち

県高校新人卓球競技が11月13日から15日にかけて、いしかわ総合スポーツセンターで行われ、卓球部は女子団体でベスト8となった。

部長の中山莉那さん（2年1組）は「シングルスでは1、2年生合わせて6人が1回戦を突破し、それぞれの成長が光りました。ダブルスは惜しくも全組初戦敗退となりましたが、チームとしての連携や経験を積むことができました。今回の経験を糧に、技術向上とチームワーク強化に励みます」と話した。

【県新人大会結果】
◇女子団体
2回戦　金沢 3－1 石川高専
準々決勝　金沢 0－3 金沢商業　ベスト8
◇男子団体
2回戦　金沢 3－0 石川高専
3回戦　金沢 0－3 錦　丘

新聞　優良賞 論説賞 受賞

表彰式で賞状を授与される部員たち

県高校新聞コンクールの結果が11月13日に発表され、「金高新聞178号」（令和7年7月22日発行）が総合の部で優良賞を受賞した。部門の部では、大竹葵さん（3年1組）が執筆した「主張・転売ヤー横行は止められるか」が論説賞を受賞した。

野球　北信越県大会 秋 ベスト8

北信越地区高校野球石川大会（秋季）は9月6日から28日にかけて、県立野球場などで行われた。野球部は準々決勝で航空石川に敗れ、ベスト8となった。

主将の大関祐晴さん（2年5組）は「非常に悔しい結果となり、対戦相手との大きな差を痛感しました。しかし、下を向いている時間はありません。夏の大会で力を発揮できるよう、冬の練習で着実にレベルアップしていきます」と熱い思いを語った。

力投する小谷さん

【北信越地区県大会結果】
2回戦　金沢 5－2 門　前
3回戦　金沢 10－3 金沢龍谷
準々決勝　金沢 3－14 航空石川　ベスト8

インターアクト　スポGOMI甲子園　全国大会出場

全国大会で協力してごみ回収を行う生徒たち

高校生がごみ拾いを競い合う「スポGOMI甲子園石川県大会」が10月18日にいしかわ四高記念公園で行われた。インターアクト部からは3人1組で4チームが参加し、優勝チームが全国大会の出場権を得た。

11月30日に千葉大学墨田サテライトで行われた全国大会では、半田莉子さん（2年1組）、屋鋪月星さん（2年1組）、木澤桃叶さん（2年4組）の3人が41チームと競い合い、6・5kgのごみを回収した。

部長の木澤桃叶さんは「きれいに見える街中にもたくさんのごみが落ちており、こうした大会のことがもっと広く周知されてほしいと思いました」と達成感に満ちた表情で語った。

各部の記録

バドミントン部
◇男子団体
2回戦　金沢 3－0 大聖寺
3回戦　金沢 0－3 桜　丘
◇女子団体
1回戦　金沢 0－3 泉　丘

男子バレーボール部
◇予選リーグ
金沢 2－0 七　尾
◇決勝トーナメント
1回戦　金沢 0－2 輪　島

弓道部
◇男子団体
予選　5中／32射
◇女子団体
予選　6中／32射

書道部
県高文連「高校生の書道展」
肩くるみ（2年4組）優良賞
山崎麻弥（2年3組）佳　作

少林寺拳法同好会
◇男子
▼自由組演武
新町涼介（2年2組）8位

特集

人と動物の共生目指す

～ペットは家族 愛護から福祉へ～

石川県内の犬・猫の殺処分件数が昨年調べで3年連続ゼロとなり、「人と動物が共に幸せに暮らせる社会」の実現に向けた取り組みが進んでいる。ペットと人間のウェルビーイング（幸せ）の在り方を考えるため、新聞部では保護動物を飼育、譲渡する施設やペットのいる生活を支援する新たな商業エリアを訪ね、取材を行った。

ペットは人間に幸せを感じさせる存在だ

譲渡推進で殺処分ゼロ

飼い主のいない犬や猫を保護する「いしかわ動物愛護センター（しっぽのかぞく）」は一昨年4月、津幡町の県森林公園内に設立された。木のぬくもりが心地よい広々とした施設は、飼育室、検査・処置室や手術室、シャンプーやトリミングを行うグルーミング室などが完備され、最大で犬30頭、猫70頭を収容することができる。屋外には大のサイズごとに分けられた北陸最大級のドッグランも備え、愛犬を存分に遊ばせることができる。

施設について餅井さんから説明を受ける部員たち

保護犬を見ることができる

広大なドッグラン

主任技師で獣医師の餅井眞太郎さんによると、開所から昨年9月までの時点で犬76頭、猫486頭の譲渡が成立し、それぞれに新しい家族を見つけることができた。また、能登半島地震で被災したペットを積極的に受け入れ、犬3頭、猫51頭の譲渡につなげた。そのほか、センターでは正しい飼い方やしつけを学ぶための普及活動も行っている。

「最後まで責任を持って」

保護猫がお出迎え

譲渡が推進される一方で、センターに保護される動物の中には、飼い主の引っ越しや高齢化のため、代わりに世話する人がおらず飼えなくなった、という無責任なケースも見られる。餅井さんは「ちゃんとペットを飼える環境を整え、家族と十分に話し合ってから飼うことが大事です」と呼びかけていた。

なお、センターは譲渡をすぐに希望しない一般の人も自由に見学することができる。私たち部員一同も愛らしい保護犬、保護猫たちの姿に癒され、充実したひと時を過ごさせてもらった。

猫用のマッチング室

「愛犬との暮らし」を提案

近年、「アニマルウェルフェア」（動物福祉）が普及し、これまでの「愛護」（かわいがって守る）から、動物が生涯快適で健康的な生活を送れるようにしようという考え方が広がっている。こうした「人とペットの幸せな暮らし」をコンセプトにする複合商業施設「Knot（ノット）」が、昨年10月に金沢市西泉2丁目にオープンした。

Knotのドッグランを体験する部員

開設にあたった㈳石川県建団連加盟、㈱家元マネージャーの伊藤和美さん（本校卒業生）によると、Knotは人と人、住まいや暮らしをつなぐ場を通じてライフスタイルを提案する新しいタイプの住宅展示場だという。ドッグランを含む芝生エリアを囲んだ建物には、おしゃれなドッグカフェ、トリミングサロン、インテリアショップ、動物病院（予定）など、ペットに関するテナントがずらりと揃い、一日中愛犬と楽しく過ごせる環境が整っている。

ほかにもリラックスできるソファーやデスクを揃えたカフェもあり、犬を眺めながら勉強や仕事をする人たちの姿が見られた。伊藤さんは「親子で楽しめるワークショップやマルシェも定期的に開催しているので、多くの方に来場してほしい」と話した。

現在、日本の4世帯に1世帯は動物と一緒に暮らしているそうで、ペットはまさに家族の一員である。お互いを大切にしながら、人も動物もウェルビーイングを得られるような共生社会の到来を願わずにいられない。

トリミングサロンも充実

本校卒業生の伊藤さん

北陸ラーメン紀行

～最高の「一杯」を求めて～

「皆さん、ラーメンは好きですか?」実を言うと私は自他共に認めるラーメン好きで、美味しい店の情報があれば電車で県外に行くことも厭わない。「極上の一杯」を求めて、これまでに私が訪ねた北陸地域のラーメン店を紹介する。

ファンが行列を作る新潟のラーメン店

長岡発祥「生姜醤油ラーメン」

ラーメン店をよく「二郎系」「家系」などと分類することが多いが、北陸3県および新潟の各店にはさらに地域の多様性がある。特に近年ブームを呼んでいるのが、新潟県の「長岡生姜醤油ラーメン」だ。この人気の秘密を確かめるため、私は昨年11月、はるばる電車で長岡市の有名店を訪れた。

ちなみに新潟県はラーメンの支出額ランキング（1世帯あたり）が全国2位で、強豪店がひしめき合っている。その日も行列に並ぶこと30分、ようやく運ばれたラーメンの生姜風味の醤油スープを一口すすると、体が芯から温まっていくのを感じた。寒い冬を乗り切るために生姜をふんだんに使った、まさに新潟という地域が生んだ味だった。

地元金沢にも多くの有名店あり

新潟の熱量には劣るかもしれないが、北陸3県もそれぞれ個性豊かなラーメン店がしのぎを削っており、富山は「富山ブラック」、石川は「8番らーめん」などのご当地ラーメンが有名だ。そして昔ながらの味を守る老舗から、訪れるたびに進化を遂げる「新勢力」もあり、月に5回はラーメンを食べる私でも日々新たな発見がある。

極上スープを「完飲」

最後にラーメン通の私が一番好きなお店、富山県魚津市にある「はじめ家」を紹介する。家系ラーメン発祥の吉村家からのれん分けした店舗は全国でも数えるほどしかなく、ファンの間では「直系」と呼ばれ親しまれている。

先日訪れた時も駐車場には全国各地のナンバーの車がずらりと並び、そこはまるで観光地。「お客様は我が味の師なり」と書かれたのれんに直系らしさをひしひしと感じていると、ラーメンが到着。醤油と鶏油のうま味が効いたスープは一口飲んだだけで完飲（ラーメン用語・飲み干すこと）が確定するほどの味わい。麺は直系ご用達の酒井製麺で中太麺がスープによく絡み、完飲して大満足で店を後にした。

（※同店より本紙掲載許可済）

私のNo.1「はじめ家」

ラーメンは地域性、多様性を表す豊かな食文化である。「最高の一杯」を求めて、私の探訪記は今後まだまだ続くだろう。

（小杉　喜太郎）

編集後記

初めて部長という立場で新聞制作に携わりました。1年生が和気あいあいと、時には真剣に表現を模索している姿に感化されると同時に誇らしく思いました。また、不明な点は質問し合う、誤字や脱字を確認する、進捗状況を明確にするといった基本的な手順を怠らないところがこの新聞部の良いところだと改めて感じました。

林　菜月（2年1組）

主に特集の記事を担当しました。今回の特集は「動物愛護」がテーマでしたが、取材や記事作成を通じて、前回の新聞作成での反省を活かしながら、動物との共生について自分自身も考えることができました。特集を書くという初めてのことに挑戦できて嬉しかったです。次回も良い記事が作成できるよう頑張ります。

永森　美里（1年1組）

部活動の結果の記録を担当しました。2回目の新聞制作となり、前回より語彙を工夫し表現力を増すことができたと感じています。また、前回の制作で学んだことを活かし、作業を円滑に進めることができました。次回も取材や新聞制作に懸命に取り組み、皆さんに読みやすい新聞をお届けできるように頑張ります。

前　膳之介（1年1組）

2カ所に取材に行きました。取材をしている中で、新たに生まれた質問でさらに取材内容を深めることができました。現地で働いている人の話を直接聞くことによって新たな発見がたくさんあり、より興味を持つことができました。また、記事の見出しを考える際に語彙をより増やさなければならないと思いました。これからより新聞を楽しんでいただけるように作成していきます。

馬渡　結衣羽（1年1組）

打ち込み作業をしていく中、誤字脱字が多く苦戦しましたが、先輩や先生のアドバイスのおかげで無事完成することができ、達成感に浸っています。次の新聞作成ではより成長した文章を書けるようになり、読んでいただく皆さんが楽しめるように頑張っていきます。

田村　心（1年3組）

初めての取材に行き、質問の仕方など多くのことを学びました。前回よりもできることが増え、楽しく制作に取り組めた一方で、打ち込んだ記事の保存失敗などのミスも多かったので、次号では気をつけてよりよい新聞作りに励んでいこうと思います。

宮村　菜央（1年3組）

主に部活動結果の打ち込みを担当しました。3年生が引退し忙しかったですが、納得のいく新聞を完成させることができました。前回よりも多くの時間を費やし、自分自身の成長を実感することができたため、とても思い出深いです。読者の皆様が興味をもって読んでくれるような記事を作ることができるように頑張ります。

森下　昊紀（1年8組）

今回私は単独でコーナーを担当させていただきました。これだけの長文は書いたことがなく、内容もまだまだ拙いものだと思いますが、読んでいただけると嬉しく思います。

小杉　喜太郎（1年11組）